第６課　一致のたとえ

【暗唱聖句】

「体は一つでも、多くの部分から成り、体のすべての部分の数は多くても、体は一つであるように、キリストの場合も同様である」第一コリント12：12

【今週のテーマ】

今週は一致が聖書の中でどのように例えられているかを学びます。

【日曜日・神の民】

「しかし、あなたがたは、選ばれた民、王の系統を引く祭司、聖なる国民、神のものとなった民です。それは、あなたがたを暗闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力ある業を、あなたがたが広く伝えるためなのです」第一ペテロ2：9

神様の民とは、神様によって選ばれた者であり、王なる神様の系統を引く祭司としての役割があり、また聖なる者たちであり、さらに神様のものとされた民たちのことを言います。神様が特別な民を持っておられるのは、暗闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力ある業を伝えるためです。ただ単に救われたというのではなく、神様の崇高な目的のためにも選ばれたのだという自覚は、わたしたちに信仰者としての喜びを与えてくれることでしょう。また同じ目的が与えられているとことは、心を一つにする大きな動機となります。

「今、もしわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るならば、あなたたちはすべての民の間にあって、わたしの宝となる。世界はすべてわたしのものである。あなたたちは、わたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。これが、イスラエルの人々に語るべき言葉である」出エジプト19：5，6

わたしたちが神様の民となるためには一つ条件があって、それは神様の声に聞き従い契約を守ることです。これは聖書の中で繰り返し教えられていることで、神様の御声に聞き従うことなしに、神様の栄光を現わし、人々を暗闇から光の中へ招きいれることはできません。しかし、もしわたしたちが神様の御声に聞き従うならば、そのとき私たちは初めてすべての民の間にあって神様の宝として輝くのです。この意味ではすべての人が同じではなく、すべての人が神の民として選ばれたわけでもないことがわかります。

　しかし、なぜわたしたちは選ばれたのでしょうか。何か優れたところがあったからでしょうか。それに対して聖書は次のように語っています。

「主が心引かれてあなたたちを選ばれたのは、あなたたちが他のどの民よりも数が多かったからではない。あなたたちは他のどの民よりも貧弱であった。ただ、あなたに対する主の愛のゆえに、あなたたちの先祖に誓われた誓いを守られたゆえに、主は力ある御手をもってあなたたちを導き出し、エジプトの王、ファラオが支配する奴隷の家から救い出されたのである」申命記7：7，8

イスラエルが選ばれたのは彼らが優れていたからではなく、むしろどの民よりも貧弱だったからだと言うのです。貧弱だったから神様の愛をいただいたのです。もちろん、アブラハムの子孫であり、神様はアブラハムに対してなされた契約を守ってくださったからという側面もあります。しかし、それ以上に神様の恵みによって選ばれたのです。このことを私たちも忘れてはなりません。

【月曜日・神の家族】

「従って、あなたがたはもはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族であり、使徒や預言者という土台の上に建てられています。そのかなめ石はキリスト・イエス御自身であり、キリストにおいて、この建物全体は組み合わされて成長し、主における聖なる神殿となります。キリストにおいて、あなたがたも共に建てられ、霊の働きによって神の住まいとなるのです」エフェソ2：19～22

聖書では神様を信じる者たちに対して神様の民と表現するとともに、神様の家族とも表現しています。このことによって、わたしたちはお互いどのような関係であるのかがわかります。家族ほど強い絆で結ばれた単位はありません。

また神様の家族と家（建物）を結び合わせてさらにその意味合いを深めています。第一ペテロ2：5では「あなたがた自身も生きた石として用いられ、霊的な家に造り上げられるようにしなさい」と私たちを石に例えています。石は一つだけでは家を建てることができませんが、たくさん組み合わさることで素晴らしい家が立ち上がります。しかし、その際重要なのは土台です。土台は使徒や預言者、つまり御言葉の教えであり、さらに重要なのは土台のかなめ石であり、それはイエス・キリストご自身であることです。したがって、私たち一人ひとりは一つの石ですが、聖書に教えに従い、キリストを中心に家族のように共に集まり生きるとき、霊的な建物は組み合わされて成長し、最終的には神様が住まわれる神殿へとなるのです。そして、これは本当に驚くべき感動的な出来事なのです。

【火曜日・聖霊の神殿】

「あなたがたは、自分が神の神殿であり、神の霊が自分たちの内に住んでいることを知らないのですか」第一コリント3：16

聖書が教える霊的奥義の一つに、わたしたちの内に神様の霊が住んでいるという教えがあります。パウロはそれを知らないのですかと言っています。神様の霊が一人ひとりの内に住んでおられ、その一人ひとりが共に集まるのが教会なので、教会は必然的に神様の宿るところとなります。しかし、もしわたしたちの内に神様の霊が住んでおられないのなら、教会も神様不在の死んだ教会となってしまうことでしょう。

　わたしたちの内に同じ神様の霊を住んでおられるので、わたしたちは一致が可能なのです。もし、この一致を壊すものがあれば、それは神様の神殿を破壊する行為にほかなりません。そのような者たちに対してパウロは次のように警告しています。

「神の神殿を壊す者がいれば、神はその人を滅ぼされるでしょう。神の神殿は聖なるものだからです。あなたがたはその神殿なのです」第一コリント3：17

具体的にパウロは、「お互いの間にねたみや争いが絶えない」（第一コリント3：3）と言って、これが神様の神殿である教会を破壊する行為であると語っています。

【水曜日・キリストの体】

「体は一つでも多くの部分から成り、体のすべての部分の数は多くても、体は一つであるように、キリストの場合も同様である…あなたがたはキリストの体であり、また一人一人はその部分です」第一コリント12：12、27

一致を現わすたとえの中で、キリストの体のたとえは最もよく知られたものでしょう。体は様々な部位からなり、不要なものは何一つなく、それぞれ補いながら存在しているように、クリスチャンという共同体も一人ひとり多様な存在であり、互いに補い合いながら一つの体を建てあげていきます。その過程において、多くのことを学び、互いに成長していくのです。互いの弱さを補いあうところに多様性の一致の意味があります。人間的な成長はこの一致の過程で生まれます。また、互いに祈りあい、福音を伝えるという共通した目的を果たすことで、霊的な成長も生まれます。この際に大切なことは、常に頭であるイエス様をお互いに忘れないことです。

【木曜日・羊と羊飼い】

「門番は羊飼いには門を開き、羊はその声を聞き分ける。羊飼いは自分の羊の名を呼んで連れ出す。自分の羊をすべて連れ出すと、先頭に立って行く。羊はその声を知っているので、ついて行く」ヨハネ10：3，4

聖書は私たち一人ひとりを羊にたとえ、イエス様は羊飼いとしてたとえられています。わたしたちを守り、ひとつにまとめてくださるのは羊飼いなるイエス様であることがわかります。放牧された羊を見ると、それぞれ自由に草を食べています。しかし、羊飼いの合図がかかると一斉に動きだし、一つの塊となって動き、導かれた方向に動き出すのは興味深いものです。わたしたちも普段はそれぞれの生活があることでしょう。しかし、イエス様の合図があればすぐに一つとなり、導かれる方に向かっていくのです。

ただし羊飼いなる主の声を聞きわけることができなければその声についていくことができません。ここに一つになることの難しさがあります。主の御声がわからないときは、ともに祈ることが大切です。声が聞こえるまで祈るのです。